

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】令和 1 年 10 月 17 日 (2019.10.17)

【公開番号】特開 2019-93937 (P2019-93937A)

【公開日】令和 1 年 6 月 20 日 (2019.6.20)

【年通号数】公開・登録公報 2019-023

【出願番号】特願 2017-225571 (P2017-225571)

【国際特許分類】

B 6 2 D 21/02 (2006.01)

【F I】

B 6 2 D 21/02 Z

B 6 2 D 21/02 A

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 9 月 5 日 (2019.9.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

図 2 に示すように、クロスメンバ 108 d、108 e は、互いの車幅方向中央部 111、115 がマウントブラケット 114 で接合され、平面視で X 字状に形成されている。具体的には、クロスメンバ 108 d、108 e は、一対のサイドフレーム 104、106 に取付けられた 4 つの腕部すなわち右前側腕部 117 a、左前側腕部 117 b、右後側腕部 119 a および左後側腕部 119 b を含む。さらに、これらの腕部は、一対のサイドフレーム 104、106 の間で結合部によって結合されている。なお結合部とは、図 2 ではマウントブラケット 114 の位置にある領域である。より具体的には図 6 に示すように、結合部とは、クロスメンバ 108 d、108 e 同士を、パッチ 184、188 およびマウントブラケット 114 を介して結合するための、溶接箇所 186 a、186 b、190 a、190 b、192 a、192 b、193 a、193 b を含む領域である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0060

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0060】

また車体構造 100 では、図 6 に示すようにクロスメンバ 108 d、108 e が剛性の高いパイプ部材を屈曲して形成されている。このようにして、クロスメンバ 108 d は、右前側腕部 117 a と左前側腕部 117 b を含み（図 2 参照）、平面視で前側に開いた V 字状になっている。またクロスメンバ 108 e は、右後側腕部 119 a と左後側腕部 119 b を含み、平面視で後側に開いた V 字状になっている。そしてクロスメンバ 108 d、108 e の車幅方向中央部 111、115 が一対のサイドフレーム 104、106 の間の結合部で結合されることで、クロスメンバ 108 d、108 e は、平面視で X 字状に形成される。このため車体構造 100 では、オフセット衝突時に受けた前方からの荷重を、クロスメンバ 108 d、108 e を介して斜め後方に確実に伝達し分散できる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

図7は、図6の接合工程の変形例を示す図である。変形例の接合工程では、図7(a)に示すようにクロスメンバ108d、108eの車幅方向中央部111、115同士を接触させ、さらに図7(b)に示すように溶接箇所194で車幅方向中央部111、115同士を溶接している。なお図7(b)は、図7(a)のH-H断面図である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】

